

和・漢・洋 「ことわざ辞典」

(1) もう一昔前の話ですが、団体旅行でヨーロッパに出かけた日本人がレストランで「醬油がないと食べられない」と言って添乗員を困らせた…などということもありました。

【ことわざの例】

- ・日本／「郷に入っては郷に従え」(新しい土地に来たら、その土地の風俗や習慣に従うのがよい)
- ・中国／「境に入りては禁を問う」(知らない土地に行ったら、まずその土地で禁止されていることを尋

ね、それに触れる行為をしないようにせねばならない)

- ・西洋／「When you are in Rome, do as Roman does.」(ローマにいるときは、ローマ人のように振る舞え)
- (2) コロナ禍の中、何かとイライラすることもありますが、心は



なるべく平穏でありたいものです。

【ことわざの例】

- ・日本／「怒りは敵と思え」(怒りは自分の身を滅ぼすことになりかねない。ゆえに慎むべきだ) *徳川家康もこの一句をもって一族を戒めたといいます
- ・中国／「怒りを遣(うつ)さず」(腹の立つことがあっても、それを関係のない人に向けて八つ当たりすることは、敵に替むべき)
- ・西洋／「Anger is a short madness.」(怒りは一時の狂気)

(注:本欄でご紹介することわざには、他にも類するものがある場合もあります。また、日本のことわざには中国の故事に由来するものもあります)

仏事の豆知識 グリーンワーク

「グリーンワーク」とは、愛する人、大切な人と死別したことによる深い悲しみ(grief)から、立ち直っていく道程をいいます。しかし、深い悲しみもそのありようは個々異なるもので、立ち直りのプロセスも決して一律に語れるものではありません。

死を現実のものとして受け入れることが、グリーンワークの第一歩だとわ

かっていても、亡くなったことをどうしても認めたくないと思しむ人もいるでしょう。ですが、時間は確実に過ぎていきます。「日にち業」という表現もあるように、特別に何かをしなればと考えることも、時の経過がそんな心をほぐす助けになってくれることもあります。

周りの人びとも、喪失の渦中にいる人をありのままに理解して受け入れ、温かく見守りつづける姿勢が大切です。近しい人びとのそんな心遣いも、グリーンワークを支える力になるのではないのでしょうか。

そして、ある日、ふと、これをしてみよう、あれを再開してみようとするに考えている自分に出会い、ようやくグリーンワーク状態から脱したことに気づく…、そんな無理のない道程が、グリーンワークのもっとも望ましいかたちのように思われます。



生活の中の仏教語

学生

「学生の本分は勉学にあり」などと言うと、現代の学生には少し陳腐に聞こえるかもしれませんが、「学生」とは正しく「学業を修める人」を意味します。また、一般に「学生」といえば「大学生」を指すことが多いようです。

一方、仏教でいう「学生」は(かくしよう)と読み、「学匠」とも表記します。もともとは、寺院に寄寓して仏教以外



の学問を学ぶ者を称した言葉だったようですが、日本仏教においては「寺院で学問をし、仏教を修学する者」また「仏道を学ぶ僧(修学僧、学僧、学侶)」のことをいいます。因みに、天台宗の開祖・最澄は、比叡山で学ぶ「学生」のために学則などを記した「山家学生式(さんけがくしょうしき)」を著わしています。

俗世間、仏教界、いずれにおいても、「学生の本分」はやはり「学ぶこと」に尽きるようです。

くらしに役立つ情報紙



- くらしの知恵袋→らくらくお掃除 一窓まわり一
- 仏事のころえ…ベットの公墓
- 和・漢・洋…「ことわざ辞典」
- 仏事の豆知識…グリーンワーク
- 生活の中の仏教語…学生

2021年 春彼岸号

— 明治22年創業の信用と実績 —

墓石・採石・生コン・建設業・不動産取引業



森近石材有限会社

〒720-0311

福山市沼隈町草深2564-2

TEL (084) 987-2133(代)

TEL (084) 987-2934(夜)

TEL (084) 987-2820(展示場)

FAX (084) 987-2714

歳時記

菜の花

黄色一色に染まった菜の花畑は、まさしく「日本の春」を感じさせてくれる光景です。

「菜の花」と童謡

「菜の花」というと、次のような歌詞を思わず口ずさんでしまう…という方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

菜の花晶に 入日薄れ
見わたす山の端 霞ふかし
春風そよふく 空を見れば
夕月かかりて にはほ淡し

「臘月夜(おほろづきよ)」と題されたこの歌は、文部省唱歌としても昔から親しまれてきた童謡です。

この歌を作詞した高野辰之は長野県の出身で、この地では江戸時代から菜種油の原料である「菜の花」の栽培が盛んだったことから、一面に広がる菜の花畑に作詞のヒントを得たのかもしれない。

因みに、(♪) 兎追ひし彼の山 小餅釣りし彼の川…の歌詞で知られる童謡「故郷(ふるさと)」も、高野が作詞したといわれています。

「菜の花」いろいろ

「菜の花」の“菜”は、副食物を総称する“肴(な)」、食用にする魚を意味する“魚(な)”と同じ語源で、(菜や茎を食用にする草の総称)をいいます。日本で古くから栽培されてきた“菜”の代表といえば、アブラナ科の芥子菜、白菜、蕪(蕪菜)、油菜などが挙げられます。これらの「菜の花」は、ともに茎の先に十字状の黄色の四弁花を群がって咲かせます。

また、狭義では、「菜の花」は「油



菜の花」を指し、その種から菜種油を搾ることから「菜種」とも呼ばれています。

「菜の花忌」

2月12日亡くなった小説家・司馬遼太郎の忌日は「菜の花忌」といいます。司馬は、野に咲く花、とくに蒲公英や菜の花など黄色い花が好きだったとのことで、書斎の前にも菜の花を植え、毎年、春の開花を楽しんでいたそうです。

司馬の作品には、江戸時代の海運王・高田屋嘉兵衛を主人公にした歴史小説「菜の花の沖」がありますが、この題名も、司馬の菜の花好きに因んだものだといわれます。

「菜の花」を詠む

- ・菜の花や月は東に日は西に 蕪村
- ・菜晶に見花がほなる雀かな 芭蕉
- ・はてもなく菜の花つづく宵月夜母が生まれし国美しき 与謝野晶子

らくらくお掃除

窓まわり

窓ガラスだけでなく、網戸やブラインド、サッシのレールやカーテンレールなどは、一般に、毎日お掃除をするということはまれで、つい汚れを溜めてしまいがちです。ですが、汚れは“目立たないうちに退治する”ことを心がければ、掃除にかける労力も少なくて済みます。



これは便利

「〇〇用」といった個別の道具をわざわざ用意しなくても、手持ちの品を工夫するだけで、便利なお掃除道具に早変わり。

①「軍手ぞうきん」

ゴム手袋の上に軍手をはめるだけですが、軍手をぞうきん代わりにすれば、思わぬところで大活躍してくれます。

②「ナイロンタオル」

お風呂で使うボディウォッシュ用のナイロンタオルの使い古したものを利用します。適度な硬さのあるナイロンタオルは、こすらないと落ちない汚れや、表面が凹凸した網戸などの掃除に最適です。

③「切り込み入りスポンジ」

硬い面と柔らかい面が2層になった台所用スポンジの柔らかい側に、 Cutterで切り込みを入れます。これは、サッシのレールなどの掃除にとっても重



お掃除しましょう

では、①、②、③を使って、実際にお掃除をしてみましょう。

《ブラインド》

埃が溜まりやすいブラインドは、断面が硬くて手を切ったりしやすく、掃除には注意を要するところです。そんなブラインドの掃除には①がおすすめです。

まず、①を両手にはめて住居用洗剤をつけ、ブラインドの隙間に指を差し入れて汚れを拭き取ります。次に、水で湿らせた別の①で洗剤を拭き取り、もっと効率よく掃除をしたい場合は、右手に洗剤をつけた①を、左手に水で湿らせた①をはめると、右手で拭いた後、左手で即、洗剤を拭き取ることができます。

* ①はほかにも、乾いたままで使用すれば障子の棧の埃を取るのに便利です。また、指先に少量の洗剤をつけてドアノブをキュキュッと握れば、細かい部分の汚れを落とすこともできます。

《カーテンレール》

カーテンを洗濯したときには、カーテンレールもきれいにしたいものです。まず、レールの外側は固く絞った布で拭きます。そして、レールの内側

を拭きます。

注：切り込みは、スポンジの硬い側に届いてしまうと使いにくくなるので、あまり深く入れ過ぎないようにします。

用に、10cmほどにカットした②を割り箸の先に巻いて輪ゴムで止めたものを用意し、住居用洗剤を少量つけて溝に沿って一拭きします。

* ②はほかにも、ワイパーに巻き付けてさっと拭けば、網戸の埃落としにも便利です。

《サッシのレール》

はじめにレールの隅の埃や泥を竹串などで掻き出し、掃除機で吸い取ります。次に、住居用洗剤をレールにさっとスプレーし、約1cm幅の切り込みを入れた③をレールに合わせて拭きます。これで、レールの溝も側面もすっきりきれいになります。

* ③はほかにも、切り込みを5mm幅ほどにしてエアコンカバーの溝に合わせて拭けば、簡単に埃を取ることもできます。

ご存知ですか？



—ジーンズの再利用—

ジーンズの生地は鏡を磨くの最適。小さく切って洗面所などに常備しておく便利です。

仏事のこころえ

ペットのお墓

近年よく耳にする言葉に「ペットロス」があります。愛する人の死は何より辛いことですが、家族の一員であるペットの死も同様に、深い悲しみと喪失感をもたらすものです。そんな中、「ペットのお墓」をつくりたいという方も年々増えているようです。



古代の“お墓”

昔の日本では、飼い主に忠誠を尽くして死んでいった犬を「義犬」と呼んだそうです。そんな犬を祀った「義犬塚古墳（ぎけんづかこふん）」が、現在の大府岸和田市にあります。それは、飛鳥時代に朝廷で権勢を誇っていた物部守屋（もののべのもりや）の家臣・捕鳥部万（ととりべのよろず）の飼犬の墓だと伝えられます。

『日本書紀』によれば、587年、蘇我氏らの軍勢に主君・守屋が滅ぼされ、万も自害します。そのとき、万の飼犬はその亡骸から離れず、つい

には主の首を土に埋めてその側に伏したまま何も食わず、やがて死んでいったといいます。そして、この犬の

忠義に深く感銘した朝廷が、墓をつくらせて「重に葬ったのが、今に残る「義犬塚古墳」だということです。

ペットへの想い

前述の、飛鳥時代の“忠犬ハチ公”を想像してもわかるように、私たち日本人は、犬をはじめとする身近な動物を「家族の一員のように」扱い、その信頼関係のもと、動物たちと助け合い、支え合いながら近い関係を築いてきました。

そして現在、人間と動物の関係はより親密なものとなっています。ペットは、癒しや安らぎを与えてくれる存在であるというだけではなく「正」に家

族の一員であり、人間の家族と同等、ときにはそれ以上の愛情を注ぐ対象となっています。

そんな最愛のペットが亡くなったとき、飼い主は出来得る限りの供養をしたいと願うのは自然なことでしょう。また、お墓をつくることは、供養のためであるのももちろんですが、残された「家族」の「心のよりどころ」としても大切なことなのではないでしょうか。

お墓をつくる

ペットのお墓には、飼い主の希望に沿って、さまざまな様式があります。たとえば、（墓地に埋葬する場合）、墓地には、業者が営むペット専用墓地や、寺院が敷地の一角をペット用墓地にしたものなどがあります。墓地の種類としては、他のペットとともに埋葬する「共同墓地」と、個々体のペットを埋葬する「個別墓地」があり、個別の場合は墓石を設置します。墓石には名前やペットへのメッセージを刻んだり、材質にもいろいろな種類があります。

また、〈自宅の庭などに埋葬する場合〉などは、オーダーメイドでペット

の姿を再現した焼き物をお墓の目印として置いたり、ペットの写真入りのプレートにメモリアルストーンにするなど、さまざまなスタイルがあります。

ほかにも、いつでも骨壺が見える状態で供養できることや、仕事帰などでも手軽にお参りができる利点を考えて（納骨堂に安置する）ケースも増えています。納骨堂はまた、お墓への埋葬までの仮安置所として利用する方も多いようです。

（どのような様式を選択するにしても、寺院や専門の業者さんにご相談されることをおすすめします。）

